

一循環型医療連携— より質の高い医療の提供を

地域完結型医療

今日の医療の形態は施設完結型から地域完結型に変化してきています。

これは1つの医療機関が全ての診療行為を行うのではなく、異なる役割を持つ医療機関がそれぞれの特色を活かした診療を行うと同時に、同じ地域に属する複数の医療機関が協力して患者さんにより質の高い医療を提供すること、これが地域完結型の医療といわれています。

肝疾患における地域連携

当院の肝疾患患者も今年4月から積極的に地域連携の導入を開始しました。

対象としている疾患は

- ①C型慢性肝炎
- ②C型慢性肝炎のインターフェロン治療
- ③B型慢性肝炎
- ④B型慢性肝炎のインターフェロン
- ⑤自己免疫性肝炎
- ⑥原発性胆汁性肝硬変
- ⑦肝硬変です。(図1)

消化器内科
副部長

永坂 敦



適応条件

適応条件としてC型慢性肝炎のインターフェロン治療はリバビリンによる貧血が安定化する8週目以降とし、月に一度当院を受診し、他の3週は近医でペグインターフェロンを投与のため通院していただきます。B型慢性肝炎のインターフェロンは2週間入院で連日βインターフェロンを投与ののち、週3回近医で投与し月1度当院を受診するようにしています。他の肝疾患は原則肝機能が正常の症例を適応とし、近医には2～3ヶ月ごと採血しデータのチェックを受け、当院には6ヶ月ごと超音波検査のため受診していただき、その際に採血データを持参するようお願いしています。また、肝機能が異常を来した時点で当院へ再度紹介いただき、治療を再検討するかたちにしております。



図1：肝疾患地域連携疾患別件数

[平成21年4月末から7月までのデータ]